

## 第1号議案 SENID 2012年度事業報告

### 1. IDD 予防対策の妊婦・幼児のスクリーニングと教育プロジェクト

- ① 期間 2012.10～2013.03
- ② 場所 Beni 国立病院 Myagdi
- ③ 対象 妊婦と新生児 100名
- ④ スクリーニング；採尿による UIE テスト
- ⑤ 教育 罹患している妊婦及び地域担当保健婦
- ⑥ レポート；別途

### 2. 昆布カプセルに関するネパール政府へのアピール（経過報告）

2011. 6

ネパールの提携先 PDIDReC より次の連絡があった。

「象皮病の予防接種で死亡事故が発生し、今後、新たに治療に使用される薬品は使用不可、ただし食品は OK であると NHRC 、DDA から連絡があった。」

・当 NPO より「現在使用のカプセルは海藻からの抽出物を封入したもので、食品であって薬品ではない」の抗議を NHRC にするよう PHIDReC に依頼した。

- ・WHO 神戸センターにアドバイス受けに訪問
- ・日本食品センターにカプセルの分析依頼

2011. 9

抗議の反応もなく、プロジェクトの内容もカプセル供給から IDD のスクリーニング（選別）と IDD 教育にシフトせざるを得なくなった。

2012.2

- ・岡本病院岡本院長にネパール要人との調整依頼

2012.8

- ・要人とのコンタクトなく、楽観的な観測判断
- ・ネパール・今村ホスピタルの無医村対策の一環活動に便乗する案を想定

2012.11

- ・理事長熱田宅（寝屋川）にてネパール官僚 OB・ネパール氏よりアドバイス

「ネパールスタッフを通してのアピールは不可。UNICEF か JICA のネパール事務所を通してのアピールが効果あり」

- ・UNICEF 東京事務所を通してネパール事務所にアピール依頼した。（資料つき）  
いまだに何の反応もない

2013.01

ネパール官僚 OB・ネパール氏のより NHRC の事務局長と国家計画委員会の事務局を兼ねている Laxman Aryal 氏の紹介を受けてコンタクト始めた。

・資料を送り NHRC の各委員個々にネゴテーションをかけた上、会議に諮ったが、設備もないしここでは判断難しい。Food and Quality Control Office に回すべきだとなった。

・たらい回しの末、ゴールの **Ministry of Health and Population** (保健省)に資料を持ち込むことになり、従来の資料に現物の乾昆布と昆布収穫イラストと昆布ミネラルカプセルの30個入りパックを添えて、手渡した。

2013.02

・ **Laxman Aryal** 氏より保健省に資料一式届けたとの連絡が入った。  
(以降バンコックに長期出張)

2013.03

・ **Laxman** 氏より「これからフォローする」と返事あり。  
・しかし、政府担当部署と直接コンタクトを取って欲しいと、ギブアップの返事。

2013.04

・ **Laxman** 氏より **Raj Kumar Pokharel** (保健省子ども健康部栄養課課長)を紹介され、直接コンタクトを取るよう要請された。

2013.05

・ **Raj Kumar Pokharel** 課長より、趣旨ご理解の上、昆布に関する明確すべき事項のアドバイスを受けた。その上で、保健省政策計画・国際協力部部長宛にプロジェクト提案書を提出するよう要請を受けた。(6月中に提出の予定で準備中)

3. 日本ネパール女性教育協会(JNFEA)とタイアップして西部地区のIDD予防運動へ

① 日時 2013.01.15 PM2.00

② 場所 東京駅ステーションホテル

③ 出席者 JNFEA ; 山下泰子理事長、吉谷栄子事務局長

④ 打ち合わせ内容

・ JNFEA が支援している「おなご先生」養成のポカラ・プロジェクト卒業生(村で教師)に対するIDD(ヨード欠乏症)教育と地域の栄養改善教育を施し、将来は妊婦に対するヨード補給をめざす。

・ 卒業生のフォローアップ研修をポカラ・さくら寮で実施するので、教育の場として活用する。

・ カプセルの使用許可が出れば、ヨード補給活動を載せていく。

・ 2013年度から開始

4. 助成金申請

・ 公益財団法人 大阪コミュニティ財団

・ 公益社団法人 毎日新聞大阪社会事業団

・ パナソニック(株)地球市民支援グループ

5. 会員拡充活動

・ 個人会員

・ 法人会員

・寄付者

## 6. その他

ヨード・サプリメントとしての昆布カプセル問題の解決に翻弄されて、次の 2 点を遂行できなかったことを残念に思い反省している。

・ヨード欠乏症とその予防対策としての食生活、その動機となる栄養知識を盛り込んだ、教育テキストの作成を計画していたが、資料収集の段階で終わっていたこと。

・ヨード補給した母親とのグループインタビューを目的にしたネパールツアーを計画していたが、実行できる段階にならなかったこと。

## 7. 昆布ミネラルカプセルの使用についての今後の見通しと問題点

・今後の方向、その 1——カプセル継続の場合

サンコソバ地区妊婦ヨード補給プロジェクトのチャレンジ

背景；サンコソバ地区への輸送トラブルにより、食塩の供給が問題になっている。この解決策に、昆布ミネラルカプセルによる補給で成功事例を作ることで、カプセル認可の環境づくりにつなげたい。

方法；成功事例をシンプルで分かりやすくするため、尿中ヨード検査による濃度の改善をもって判断する。判断はヨード摂取後出産時の妊婦と一般婦人のヨード濃度比較、出生児と一般幼児のヨード比較をもって、改善を判断する。参考；2007 年度のプロジェクト手法

・今後の方向、その 2——カプセル代替えの場合

高血圧患者用昆布ミネラル健康食品の開発

背景；ネパール都市部の人々はヨード添加塩の取りすぎや、糖尿病で高血圧患者が多い。ヨード添加塩を減少させるために、昆布による振りかけ「ミネラルの素」を開発する。併せて栄養教育、食品マーケティングの展開が必要。

方法；①フジッコ（株）とネパール食品メーカーとのジョイントビジネスとして商品開発

②料理学校、料理教室の開設

以上